

東京教育大学

69, 3.4

新たに反情勢に抗して

現在までの二〇〇日以上に亘るバハケード・ストライキを战斗的に斗ひ抜いてきた社会学の他の学生達も、こうとしている社会科学の全との学友諸君！

反情勢！

又、身、新たに斗争の創造を主体的に立ちて、いはうとしている社会科学の全との学友諸君！
（二月二一日）大學當局の不當な彈圧と校舎隊に入り込むされた時点において、社会科学斗争委員会事務局は、今ちでより以上の激しい火炎を発散すべく再びの未起毛風この在学中の学生に訴えたい。

さゞ、校舎隊入が持つ意味について若干のべておきたい。

この校舎隊入が持つ意味は、少い情報を絶対しきみると、大きくいへて次の三點に要約されていくであろうと思われる。

第一に、夏休丑以降、本體封鎖並日本部なる学生のスト狂暴化は作られたが全く放棄せず、又、夏休丑、更休丑、留年、四年生の昇等々による、学生のストライキの内部組織にあわい糾糾を既してハシタ被襲並來る大學當局は、その態が幻滅的しみじみつたことを抱ることにより、今々、國権的な粗略、凶暴化するか、眞善的な暴力をもって学生の弱處、國立の斗いの丑船を自認んざきていた。

第二に、校舎隊入が撤去されても二月二八日に再び入られ、バケードが撤去されても二月二九日に再び入らるは、大變也。さの校舎隊入と院舎、正しく教養大的全面封鎖と休校、屢々が自家能力の方をかゝれども遂行していこうとしていることとの想更に他ならないこと。

そして、オミに、この三月、四月をもつて何が何である七〇年からの就後新嘗學園不計画の着工による並々ならぬ大學當局の固い夫意が、一昨明確な形で顯在化してきしたことである。大學當局は推進派が文教授会を中心とする教員反対派部分を完全に切り離して物を行つてこころと、学生、家生等の運動反対の大義的基盤を失つていないのである。しかし、これが到底に運営於を中心として一身上に学生の運動を牽引し

へか運動於を中心として一身上に学生の運動を牽引しにのみへいたこと、推進派三教官と全導師との大対立、國文部監禁事件とし、これを口裏にしてハ名の考査

ようとする動きは政府より支那者階級と結託した推進六の意見をほへまいとおせつけるものであつた。

こへした校舎隊入と、反情勢的力を持つて戦闘を推進しようとする大學當局の動向は、國権強化といわれる動脈分野をさらにめざさせ、懲罰を加えることによつて、自己保険への道へと一举に彼らを阻しこんじへく運動である。

以上、みてこたまうに、氣氛緩和獨立斗争は必ずさ義上に困難をさわめてくるといつてゐる。されば、入試中止をめぐる騒動は眞善な運動政策の立場を経て塵立しに現在の評議会は、ニ等部を除いては大部が推進派メソドーにすへて廣められてゐる。校舎隊入が評議会決定三週間を過ぎてから、國島吉良代行は人の衣服を行つたの内裏興であるが、失日評議会での開会式小集會を悉く學生部長に選出され、これるようには、推進派の評議会内に已着々と一二の国島吉良代入への地圖が送つてあつた。そ

して、全學斗争を中心とした被襲阻止斗争の彈圧を進一步でモ遠くから、震懾をうつて、我々への彈圧をなづらへてゐるであろうことを、ローブと禮服でござりである。國民に、高貴的な口愛和力をも持つて、己、我々の斗いは走して飛びることなく、被襲阻止の日まで继续されていふであらうこと日一スノードと大學當局に推進派ヒットけていくやうである。

如何にして其のベネ

校舎隊入をめぐる連絡を少し説明したわけであるが、こうして繋通しておせ下にあって我々の胸をなすべきは、

毎年六月、東大、日大と共に全国學園斗争の先頭を切つて起始され、教育大學の被襲阻止斗争の頃庄幸さ二〇〇日以上のベケード。之にこなせやらねども、被襲過去宣言の發表はおこない。一方、六八年から六年にかけての全国高等学校斗争は、東大、日大斗争を原点として、種々な問題も日々みつかり、相当前度の恩口的斗争の後ろと斗争主体の側と、被襲をなしつつある。たしかに、被襲時に東大、日大斗争は非常な困難な状態にあるといわれねばならない。しかし、東大斗争が、日大斗争が提起しないであつた。その半端は走つてこなせる力といえども庄毅することをきよい。

そこで、東大の教育大の被襲阻止斗争を全国的

卷之二

國事との因縁の中からして、この点を要である。特に、口交が
本筋の實質上、極めて重要である。そこで、本筋の實質上、
本筋の實質上、極めて重要である。そこで、本筋の實質上、

5

卷二

即ち、我々の運営に問題を有いたします。一つには東洋半島を貿易とした
一連の貿易政策上問題に亘る在日自民黨の外債の累積を廻和として

卷之三

展開するのであるが、最も大いに影響を及ぼすのは、この「アーティスト」である。

回紙白茶葉。

三十六年（1903）の御前品の用紙、無花の右端

卷之三

教育大尊遷ノスト再建

卷之三

學正堂文集

の裏の山は、さういふやうだ。

本日もい。後藤の孫三又翁が爲學風尚恬淡、教誨其門生尤推重也、

の間違ひを起さぬことを第一にす。

（三）外國の法律をしたる：

五未定年立・庚申酉酉癸未未未と、一〇〇事例が生み出される。この問題は、正統以前のものと、明の問題と問題とされる。一一一八一
「押えあわせのほるいほ」こと、この生贋・吸菸などの習慣と時間的
的・空間的・文化的・種族的・政治的・経済的・宗教的・社会的・民族的・人種的・
歴史的・政治的・社会的・文化的・精神的・思想的・宗教的・政治的・社会的・文化的・
の大さな複数点をもつてしてゐることである。我々は皆として敵の恩恵を打ち

余の學校が以上で終結する事は、當時の體の下、社會主義の下に進むて、
そこで幾處のアーバン・ソシエティが創立された事だ。